

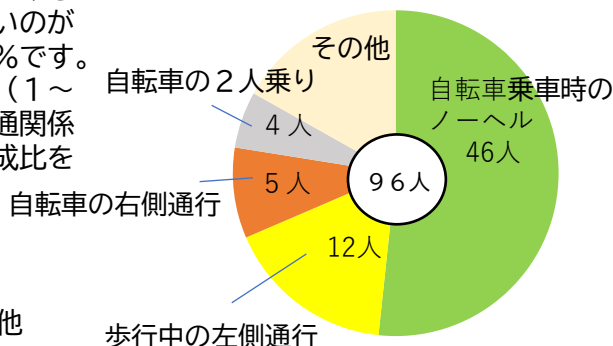
交通関係の指導状況

巡回パトロールにおける指導の中で、最も多いのが交通関係で全体の60%です。

右の図は令和8年（1～6月）中における交通関係の主な指導状況の構成比を示したものです。

交通関係指導別人数

※ その他
歩行者の広がり
車道等の歩行 他



教育相談室

6月の教育相談の状況（件数）

学校生活に関すること・・・9
その他・・・・・・・・・・2
関係機関との連携・・・・2

相談場所リナシティかのや2階福祉プラザ内

月～金 9:00～16:30

☎ 44-8799

0120-555-655



⚠ 不審者情報 ⚠

※ 不審者情報が多発しています。「いかのおすし」の徹底をお願いします。



- 日時：6月5日（金）16:00頃
場所：鹿屋市札元1丁目付近の路上
内容：小学生女兒が下校中、ニヤニヤしている男に後をつけられました。不安に思った女兒は、大人に助けを求めました。
男の特徴：30～40歳位、身長170cm位、中肉、上衣緑色系のジャケット、下衣黒色長ズボン着用
- 日時：6月5日（金）16:10頃
場所：鹿屋市旭原町国道269号線付近の路上
内容：小学生女兒が下校中、車に乗った男から「餅いらない？」としつこく声を掛けられました。女兒がその場から走って逃げたところ、男は車で走り去りました。
男の特徴：60～70歳位、黒縁眼鏡、上衣グレーの長袖着用、白色の自動車使用
- 日時：6月6日（土）15:30頃
場所：鹿屋市西原3丁目1番付近の路上
内容：小学生女兒が複数で通行中、見知らぬ男につきまとわれました。女兒らは近くの建物に逃げ込み、大人に助けを求めました。
男の特徴：20～30歳位、身長160cm位、中肉、黒色短髪、野球帽、上衣灰色の長袖パーカー、黒色の長ズボン着用
- 日時：6月11日（木）20:00頃
場所：鹿屋市寿5丁目11番付近の路上
内容：女子高校生が通行中、男から「姉さん、かわいい。」などと声を掛けられました。高校生は不安になり、その場から走って逃げました。
男の特徴：20～25歳位、身長170～175cm位、中肉、黒色短髪、マスク、上衣ストライプ柄長袖シャツ着用
- 日時：6月24日（水）16:00頃
場所：鹿屋市寿3丁目の路上
内容：小学生男児が複数で下校中、車に乗った男から「〇〇の場所を教えてくれる？」と声を掛けられました。男はさらに、助手席のドアを開けたことから、男児らは不安になり、その場を離れ大人に知らせました。
男の特徴：60～70歳位、中肉、黒色短髪、マスク、上衣白色の半袖Tシャツ着用、灰色の自動車使用
- 日時：6月29日（月）15:00頃
場所：鹿屋市西原2丁目の路上
内容：小学生男児が下校中、男から追い掛けられ、腕を掴まれそうになりました。男児はすぐに近くの建物に逃げ込みました。
男の特徴：30～40歳代、身長165～170cm位、中肉、帽子、マスク、上衣黒色の半袖Tシャツ、下衣白色の長ズボン着用

「先人の学校への愛情と情熱に触れて（その2）」

※ 令和7年10月第416号に続いて

鹿屋市立第一鹿屋中学校 校長 川原 敏幸

本校は昭和22年に「西原中学校」として設立され、昭和29年に「第一鹿屋中学校」と校名を改称。昭和30年代には校舎の鉄筋化や特別教室・体育館などが新設され、その後も施設等の整備が逐次行われています。スポーツや文化活動が大変活発で、部活動でも数々の九州・全国大会への出場などで活躍してきた様子が伺えます。平成27年には高須中学校と統合し、現在の大変広域な地域から生徒が通う学校となり、現在は西原小学校、西原台小学校、野里小学校の3つの小学校から本校に生徒が通っています。今年度で80周年を迎え、これまで様々な活動を通して地域と一体となって進んできており、戦後の復興の歩みとも言える歴史を感じずにはられません。

そんな中、昨年度は元PTA会長さんから「学校林」の存在について知らされ、実際に本校の「学校林」を見学する機会をいただきました。「学校林」事業は、明治時代の学制制定（義務教育）の頃に遡り、当時は学校の設立維持に係る経費は学区内住民が負担していたことから、植林事業によりそれを補う取組が始まったようです

本校区においても当時は生活に困窮する家庭も多く、「せめて給食だけは全員に」という願いから始まった植林事業であったようです。残された記録から、長い期間に渡って本校の歴代の生徒が重い鉄の道具を抱えて登山し、一日がかりで枝打ちや草払いをして、先

輩方から受け継いだ遺産（学校林）を守り育ててきたことを伺い知ることができました。今では車で短時間に移動できる道を、当時は道具を抱えて数時間かけて歩き、作業をして守り抜いてきた当時の生徒・地域の方々の姿が臉に浮かびました。私には想像もつかないほどの、当時の方々の学校や教育に対する熱い想いに、胸に湧き上がるものを感じました。何十年も先の時代の子どもたちのために、「よりよい教育環境を残したい」という当時の方々の壮大な想いに、ただただ頭が下がる思いです。

現代は、AIの急速な普及や社会情勢の変化が激しい、予測困難な時代と言われています。先人の教育に対する深い愛情と情熱に触れたことで、これからの社会を生き抜いていく子どもたちがどのような力を付けていくべきかを、学校・家庭・地域が一緒に考えることの大切さを改めて教わる機会となりました。学校を含めた地域全体が、子どもたちにとって温かく大きな安全基地となるために、学校の果たすべき役割の大きさを肝に銘じて進んでいきたいと思います。

